

1. 事業の概要

生徒のスポーツ環境を保障し、教員の負担軽減を図るため、境港市（市部）及び鳥取市鹿野町（町村部）において、休日における部活動を段階的に地域の活動に移行する実践研究を行い、成果や課題等の検証を行った。

境港市（市部）

- ・境港市内の3つの中学校を拠点校として段階的に地域移行する部活動を選定し、実践研究を開始。
- ・選定した2つの部活動の競技（ハンドボール・陸上競技）において、新しくそれぞれ2つの任意のスポーツクラブを創設。
- ・境港市教育委員会は、両スポーツクラブの代表者で協議会を立ち上げ、今後の活動等について確認、準備等を経て、活動に向けて学校、当該部活動所属の生徒及び保護者を対象に説明会を実施。
- ・境港市教育委員会は、説明会参加者に対し、クラブに加入する意思を確認し、保険加入などの必要な事前の手続を行った。
- ・両スポーツクラブは、9月より活動を開始。
- ・境港市教育委員会は、取組の成果や課題等の検証を行った。

鳥取市鹿野町（町村部）

- ・鳥取市教育委員会は、鹿の助スポーツクラブ（総合型地域スポーツクラブ）と連携して実践研究を開始。（鳥取市が鹿の助スポーツクラブに再委託）
- ・鹿の助スポーツクラブ主催で説明・意見交換会を開催。鳥取市教育委員会及び鹿の助スポーツクラブは、学校関係者、保護者代表、地域のスポーツ指導者に対し、事業受託の経緯・今後の進め方を説明し、その後、意見交換を行った。
- ・地域内の義務教育学校を拠点校に決定。学校の意向を踏まえ、段階的に地域移行する部活動を選定。
- ・鹿の助スポーツクラブは、選定した部活動の種目（バレーボール）について、地域外から指導者を招致し、地域移行する前に試行的に活動を行った。
- ・鳥取市教育委員会及び鹿の助スポーツクラブは、生徒、保護者、指導者の感想や意見を踏まえ、今後に向けて取組の成果や課題等の検証を行った。

2. 自治体・拠点校情報

境港市（市部） 拠点校：境港市立第一中学校、境港市立第二中学校、境港市立第三中学校

<自治体> 人口：約33,000人
面積：29.10平方キロメートル
鳥取県の西部に位置する。

<拠点校>

	境港市立第一中学校	境港市立第二中学校	境港市立第三中学校
全校人数	248人	287人	254人
学級数	11学級 特支（2）	12学級 特支（2）	11学級 特支（2）
教員数	22人	25人	25人
実践研究に 選定した種目	ハンドボール 陸上競技	ハンドボール 陸上競技	ハンドボール 陸上競技

鳥取市鹿野町（町村部） 拠点校：鳥取市立鹿野学園

<自治体> 人口：約184,300人うち対象地域約3,500人
面積：765平方キロメートルのうち対象地域52.77平方キロメートル
鳥取県の東部に位置する。

<拠点校>

	鳥取市立鹿野学園 （義務教育学校後期課程）
生徒数	75人
クラス数	3学級 特支（0）
教員数	（13）人
実践研究に 選定した種目	バレーボール 軟式野球（検討中）

3. 段階的に地域移行する部活動の選定の経緯・運営団体との連携について

境港市（市部） 拠点校：境港市立第一中学校、境港市立第二中学校、境港市立第三中学校

市中学校長会から市の教育委員会に対し、部員数の減少と教職員の負担軽減の観点から部活動を地域へと段階的に移行し、市内3校が合同で1つのチームとして活動すべきとの要望があった。そこで境港市教育委員会は、人数が少なく、休部や廃部の危機にあったハンドボール部とこれまでも週末になると合同練習をよく行っていた陸上競技部をそのまま2つの地域スポーツクラブへと移行させ、平日と休日の活動を分けることで、生徒の練習時間の確保と教職員の負担軽減を図ることとした。両スポーツクラブは新規で創設した任意団体であり、指導者の多くは現職の教員が地域クラブの指導者の立場で所属しているという実態がある。両スポーツクラブの代表者と境港市教育委員会は、両スポーツクラブ創設前から協議を重ね、準備を進めてきた。

鳥取市鹿野町（町村部） 拠点校：鳥取市立鹿野学園

初めに鹿の助スポーツクラブ主催で学校関係者、保護者代表、地域のスポーツ指導者を集め、説明・意見交換会を開催した。まず、鳥取市教育委員会が事業受託の経緯や今後の方向性を説明し、その後、具体的な取組内容を鹿の助スポーツクラブ担当者が説明した。その後、参加者の意見を聞いたり質疑応答を行ったりした。地域内の鳥取市立鹿野学園（義務教育学校）が拠点校になることを確認し、今後の活動に生かしていくための方策をさぐるため、保護者及び学校関係者に対して地域移行に対する意識や要望等に関するアンケートを行うことを決定した。

4. 実践研究における実績（競技別指導者情報・活動実績等）

境港市（市部） 拠点校：境港市立第一中学校、境港市立第二中学校、境港市立第三中学校

種目名	ハンドボール								
運営団体 確保方法	境港市教育委員会が S.H.C（任意のスポーツクラブ）を創設								
指導体制	指導者								
		性別	年代	競技歴	指導歴	資格	属性	謝金	確保経緯
	1	男性	60代	30年	40年	なし	退職教員	1,520円／h	学校関係者
	2	女性	30代	15年	1年	なし	現職教員	1,520円／h	学校関係者
	3	男性	30代	15年	2年	なし	現職教員	1,520円／h	学校関係者
活動場所	境港市民体育館								
活動場所 の確保	体育館利用団体として団体登録し、毎月の体育館調整会に参加して練習場所を予約する。								
活動実績	活動日 9月（4回）								
		活動日			活動		活動場所		指導者数
	1	令和3年9月4日（土）			12:00～15:00		境港市民体育館		3人
	2	令和3年9月11日（土）			12:00～15:00		境港市民体育館		3人
	3	令和3年9月19日（日）			9:00～12:00		境港市民体育館		2人
	4	令和3年9月25日（土）			12:00～15:00		境港市民体育館		3人
	10月（2回）								
		活動日			活動		活動場所		指導者数
	1	令和3年10月9日（土）			9:00～12:00		境港市民体育館		3人
	2	令和3年10月23日（土）			9:00～12:00		境港市民体育館		3人
	11月（2回）								
		活動日			活動		活動場所		指導者数
	1	令和3年11月6日（土）			9:00～12:00		境港市民体育館		2人
	2	令和3年11月13日（土）			9:00～12:00		境港市民体育館		3人
	12月（4回）								
		活動日			活動		活動場所		指導者数
	1	令和3年12月4日（土）			9:00～12:00		境港市民体育館		3人
	2	令和3年12月11日（土）			9:00～12:00		境港市民体育館		2人
	3	令和3年12月19日（日）			9:00～12:00		境港市民体育館		2人
	4	令和3年12月25日（土）			9:00～17:00		大会参加		3人
	1月（2回）								
		活動日			活動		活動場所		指導者数
	1	令和4年1月9日（日）			8:30～11:30		第三中学校体育館		2人
	2	令和4年1月15日（土）			9:00～12:00		第三中学校体育館		1人
	※これ以降は新型コロナウイルス感染拡大により活動中止								

種目名	陸上競技								
運営団体 確保方法	境港市教育委員会が境港 J.H.S T&F（任意のスポーツクラブ）を創設								
指導体制	指導者								
		性別	年代	競技歴	指導歴	資格	属性	謝金	確保経緯
	1	男性	6 0 代	4 0 年	4 5 年	なし	退職教員	1,520 円／ h	教育委員会 の人脈
	2	男性	4 0 代	2 0 年	1 年	なし	社会人	1,520 円／ h	競技団体から の紹介 指導者の人脈
	3	女性	3 0 代	2 4 年	5 年	なし	現職教員	1,520 円／ h	学校関係者
	4	男性	5 0 代	1 0 年	3 0 年	なし	現職教員	1,520 円／ h	学校関係者
	5	男性	4 0 代	2 0 年	1 5 年	なし	現職教員	1,520 円／ h	学校関係者
活動場所	竜ヶ山陸上競技場（雨天時は市体育館を利用）								
活動場所 の確保	他の利用団体と共同利用 （調整会参加、予約等は不要）								
活動実績	活動日 9 月（4 回）								
		活動日			活動		活動場所		指導者数
	1	令和3年9月4日（土）			9:00～12:00		竜ヶ山陸上競技場		4 人
	2	令和3年9月11日（土）			9:00～12:00		旧誠道小学校体育館		3 人
	3	令和3年9月18日（土）			9:00～12:00		竜ヶ山陸上競技場		4 人
	4	令和3年9月25日（土）			12:00～15:00		竜ヶ山陸上競技場		5 人
	1 0 月（3 回）								
		活動日			活動		活動場所		指導者数
	1	令和3年10月2日（土）			9:00～12:00		竜ヶ山陸上競技場		3 人
	2	令和3年10月9日（土）			9:00～12:00		竜ヶ山陸上競技場		4 人
	3	令和3年10月23日（土）			5:15～18:15		大会参加		1 人
	1 1 月（3 回）								
		活動日			活動		活動場所		指導者数
	1	令和3年11月6日（土）			9:00～12:00		竜ヶ山陸上競技場		4 人
	2	令和3年11月13日（土）			9:00～12:00		竜ヶ山陸上競技場		5 人
	3	令和3年11月20日（土）			9:00～12:00		竜ヶ山陸上競技場		5 人
	1 2 月（4 回）								
		活動日			活動		活動場所		指導者数
	1	令和3年12月4日（土）			9:00～12:00		竜ヶ山陸上競技場		4 人
	2	令和3年12月11日（土）			9:00～12:00		竜ヶ山陸上競技場		2 人
	3	令和3年12月18日（土）			9:00～12:00		竜ヶ山陸上競技場		4 人
	4	令和3年12月25日（土）			9:00～12:00		竜ヶ山陸上競技場		3 人
	1 月（2 回）								
	活動日			活動		活動場所		指導者数	
1	令和4年1月8日（土）			9:00～12:00		竜ヶ山陸上競技場		1 人	
2	令和4年1月15日（土）			9:00～12:00		竜ヶ山陸上競技場		1 人	
※これ以降は新型コロナウイルス感染拡大により活動中止									

鳥取市鹿野町（町村部） 拠点校：鳥取市立鹿野学園

種目名	バレーボール								
運営団体 確保方法	鳥取市が鹿の助スポーツクラブ（総合型地域スポーツクラブ）に委託								
指導体制	指導者								
		性別	年代	競技歴	指導歴	資格	属性	謝金	確保経緯
	1	男性	30代	10年	なし	なし	社会人	1,600円／h	運営団体の人脈
活動場所	鹿野学園体育館								
活動場所 の確保	試行的に実施したため、今回は学校施設を利用								
活動実績	活動日（試行的活動） 1月（1回）								
		活動日			活動		活動場所		指導者数
	1	令和4年1月8日（土）			9:00～12:00		鹿野学園体育館		1名
※これ以降は新型コロナウイルス感染拡大により活動中止									

5. 参加生徒の状況及び感想等

境港市（市部） 拠点校：境港市立第一中学校、境港市立第二中学校、境港市立第三中学校

＜境港市教育委員会からの報告より＞

任意のスポーツクラブ創設後、9月より休日に活動を開始。

参加の意思を示した多くの生徒は、ほとんど休むことなく活動に参加。「これまで単独の中学校だけでは、部員数が少なく、チーム練習ができなかったり、活気に乏しかったりしたが、多くの生徒が集まることにより、練習のバリエーションが増えたり、活気がでたりして意欲的に取り組めるようになった」などの感想があった。

また、単独の中学校では休日の練習において顧問の都合が悪い場合、練習を休みにせざるをえないが、スポーツクラブでは指導者が多数いるため、練習も休みになることがほぼなく、練習が継続できることに満足感を感じている生徒も多い。また、「複数の指導者で技術面や精神面の様々な角度から指導をしていただけるので、保護者としては安心して任せられる」との意見もあった。

鳥取市鹿野町（町村部） 拠点校：鳥取市立鹿野学園

＜鳥取市教育委員会からの報告より＞

指導者の確保に難航し、本格的な地域移行はできていないが、鹿の助スポーツクラブが指導者を招致し、地域移行する前に試行的に活動を行った。その際の生徒の感想には「今後も続けてほしい」「技術面を詳しく教えてもらったので、とてもよかった」「次の練習が楽しみ」などの声があった。部活動の顧問は、バレーボールにおいて専門的な知識や経験がなく、練習内容の提示や的確なアドバイスができにくい状況にあったため、専門的な指導ができる指導者を招致しての活動は、参加者から好評であった。

6. 直面している課題

境港市（市部） 拠点校：境港市立第一中学校、境港市立第二中学校、境港市立第三中学校

- ・技術面だけでなく、スポーツ活動を通じた青少年の健全育成ができる指導者の発掘（人材の確保）が難しい。
- ・国事業の終了後、経費が受益者負担となることについて保護者の理解を得ることが難しい。（1人あたりの負担額の算出も難しい。）

鳥取市鹿野町（町村部） 拠点校：鳥取市立鹿野学園

- ・地域移行への趣旨や必要性について、保護者や地域の指導者の理解が十分に得られていない。（継続して部活動として実施すべきとの意見もある。）
- ・国事業の終了後、経費が受益者負担となることについて保護者の理解を得ることが難しい。
- ・教職員の一部には学校教育の一環である部活動を重要視する声があり、地域移行に難色を示している。

7. 成果と課題、今後について

1 境港市が抱える課題について

(1) 少子化における部員数の減少とその影響

市部（境港市）においては、少子化に伴い、各部の部員数は減少し、少人数の部は練習に活気がなくなっていた。チーム競技においては単独チームとして試合に参加できないだけでなく、日々の練習でもできることが限られてしまうという現状があった。このような中、地理的に狭い面積の中に3つの中学校があり、生徒は互いの中学校や町の施設に徒歩や自転車で移動が可能であるという地の利を生かし、2つの部活動において休日の活動を地域スポーツクラブによる3校生徒への指導に移行することで活動人数が増え、互いに競い合ったり、励まし合ったりすることで練習に活気が出て、生徒のモチベーションが上がると共に練習内容のバリエーションも増えた。これまで課題となっていた練習内容やモチベーションの問題が大きく改善され、参加生徒の約9割が活動に対し満足感を感じている。

(2) 指導者について

指導者の確保が大きな課題である。休日に毎週時間が取れ、技術面だけでなく、青少年の健全育成につながる指導ができる指導者は多くいるわけではない。また、生徒のけがや事故のない活動計画を立てることができたり、もしもの場合に適切な対処ができたりする指導者となると一定の訓練を受けた人材である必要があるため、さらに人材確保は難しくなる。そうなると、どうしても現在部活動を指導している現職の教員が、休日はスポーツクラブの指導員として立場を変えて指導にあたるという形をとらざるを得ないのが実状である。

(3) 受託者負担について

現在は国事業活用により受益者負担がない状態で活動ができているが、指導者の人件費、活動の運営費、施設や道具の管理費、安全保険等多くの経費が必要となってくる。また、受益者負担となることについての保護者の理解が簡単には得られにくく、また、参加人数によって負担額が大きく変わるため、事前に設定し、保護者に伝えることが難しい。

2 鳥取市鹿野町が抱える課題について

(1) 地域移行に対する地域、学校の意識

鳥取市教育委員会は、生徒のスポーツ環境の確保、教員の負担軽減を考え、地域移行を積極的にすすめたいと考えていた。当該地域の鳥取市鹿野町にある市体育施設の施設管理を担う総合型地域スポーツクラブには、現在スポーツ指導者がいないため、指導者の確保、育成を行い、地域に根ざした様々な種類のスポーツ活動を展開し、子どもからお年寄りに至るまでスポーツに親しむことのできる地域づくりを展開する中で、段階的に学校の部活動を地域移行するように考えていた。

鹿の助スポーツクラブ主催で学校関係者、保護者代表、地域のスポーツ指導者を集めて開催した説明・意見交換会では、地域のスポーツ指導者からは「なぜ地域移行が必要なのか」「現在、学校にある部活動と地域の剣道クラブや柔道クラブ、それぞれに参加する生徒がおりバランスがとれている」「生徒の取り合いになるのではないか」、学校関係者からは「学校には、休日も生徒を部活動で指導したい顧問がいる」などの意見も出た。地域移行についての理解が進んでいないこと、必要性を感じていない人も多くいることが分かり、課題が浮きぼりになった。

(2) 指導者について

鹿の助スポーツクラブは、指導者を招致し、地域移行する前に試行的に活動を行った。これまで生徒は専門的な技術指導を強く望んでおり、活動に参加して大変満足していた。指導者も熱心に参加する生徒の姿に手ごたえを得て、継続して指導にあたり、力をつけたい（伸ばしたい）と感じていた。しかし、活動後、新型コロナウイルスの急拡大により、活動は中止となってしまったため、継続して活動することができなかった。

(3) 受託者負担について

市部（境港市）と同じく、受益者負担について保護者の理解を得ることが難しい。

3 共通する課題と今後について

(1) 地域移行に対する実態把握と説明の重要性和関係機関との連携

共通して言えることは、地域移行に対する学校、生徒、保護者、地域の考えは様々であり、ニーズもまた様々である。まずは実態把握が必要である。生徒のニーズや保護者の理解、協力なしにはすすめられない問題であるため、丁寧な説明も必要である。さらに、部活動と地域移行（地域スポーツ）の違いや地域移行後の具体的な活動内容等についても説明の機会を作り、理解と協力を得て進めていくことが重要である。公立中学校を所管するのは、各市町村教育委員会であるため、県教育委員会は、市町村教育委員会と連携して、これらのことを進めていかなければならない。

(2) 少子化への対策、支援について

小規模の学校においては、少子化により単独でチームが組めない、部員が数名しかいないという状況も多くなってきている。単独の学校の部活動を地域移行しても、活動人数の増加にはつながらず、学校区を超えた広範囲での地域移行も視野に入れることも必要である。しかし、それには練習会場までの距離が遠くなり、保護者の送迎の協力なども必要であるため、送迎が難しい家庭への支援等についても解決策を見つけていかなければいけない。

(3) 指導者について

また、指導者の確保や育成については、都会と違い小さな県（地域）では、多くの民間スポーツクラブや競技スポーツ経験者が存在するわけではない。また、指導者資格の取得や更新には、かなりの経費や長い期間が必要であり、スポーツクラブ等が少ない地方には有資格者が少ないため、技術的指導だけでなく、スポーツ障害の防止やコーチにも精通し、青少年の健全育成を含めて指導できる者の確保が困難である。各競技団体やスポーツ協会と連携をしながら、人材の発掘に努めなければならない。

(4) 今後の部活動の在り方について

現在、本県では学校（高等学校、中学校）関係者、市町教育長、PTA、県スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ連絡協議会、教職員組合、知事部局スポーツ担当課、地域移行開催地域担当者などの代表者が集まり、県教育委員会が「運動部活動在り方検討会」を定期的を開催し、地域移行も含めた県内の部活動の在り方について検討をしている。国の提言も踏まえ、今後の在り方についてさらに検討を重ねていきたい。